



**福岡県  
地球温暖化防止  
活動推進センター  
事業報告書  
2021**

**2022年3月**

---

**一般財団法人 九州環境管理協会**





## センターの役割



一般財団法人九州環境管理協会は、福岡県知事より「福岡県地球温暖化防止活動推進センター（以下、「県センター）」の指定を受け、今日まで福岡県内の地球温暖化防止対策に関する普及啓発の拠点として役割を担ってきました。今年度で、第4期4年目となります。

県センターでは、基本的な活動として福岡県の地球温暖化対策に関する①情報提供、②広報・啓発、③活動支援、④照会・相談、⑤調査・研究の5項目を軸に事業展開を行っています。

本報告書は、県センターが実施した 2021 年度事業の内容及び実績についてとりまとめたものです。

## 目次

### はじめに

#### ■ 福岡県補助事業

##### 1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

1-1 県民への情報発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

##### 2 推進員、地域の NPO 等活動支援

2-1 啓発資材の貸出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2-2 推進員地域連絡会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2-3 講師派遣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

##### 3 住民等からの照会・相談対応

3-1 照会・相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

##### 4 NPO、企業、行政のネットワーク化

4-1 NPO・団体との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

4-2 協議会等への参画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

##### 5 温室効果ガス排出実態調査・分析

5-1 温室効果ガス排出量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

5-2 エネルギー消費量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

#### ■ 福岡県委託事業

##### 6 エコファミリー応援事業

6-1 エコファミリー募集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

6-2 削減効果分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

##### 7 省エネルギー相談事業

7-1 事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

7-2 実績及び効果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

#### ■ 環境省補助事業

##### 8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

8-1 大学との連携による COOL CHOICE 普及啓発・・・・・・・・・・ 12

8-2 サイエンスカフェの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

8-3 エコ事業所支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

8-4 うちエコ診断ソフトの普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

8-5 推進員等の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

### おわりに

# 福岡県補助事業

## 1 地球温暖化対策に関する啓発・広報活動

### 1-1 県民への情報発信

県センターでは、WEB（ふくおかエコライフ応援サイト）、紙面（減CO2クラブ、福岡県環境家計簿）等を通して、地球温暖化に関する最新情報、推進員活動の様子等について情報発信を行っています。



### ふくおかエコライフ応援サイトの更新

ふくおかエコライフ応援サイトでは、エコふぁみアプリの周知やイベント等の情報発信を行ったほか、今年度の推進員の活動報告を公開しました。

サイト総カウント数： **950,815** 回

期間：2021年3月～2022年2月

### 情報誌「減CO2クラブ」の発行

県センターでは、地球温暖化等に関する最新情報やセンター活動等を掲載した情報誌「減CO2クラブ」を毎年12月に2,000部発行しています。今年度は福岡県における気候変動適応の取組、ゼロカーボンアクション30等の記事を掲載しました。



### 福岡県環境家計簿の発行

県センターでは、家庭でのエコ活動を促進するツールとして、福岡県環境家計簿を作成しています。カレンダー形式でその月に実践すると効果的なエコ活動を記載しており、わかりやすいと好評です。

2022年度版は表紙テーマをゼロカーボンアクション30とし、2050年カーボンニュートラルを実現するための具体的な取組を挙げて、県民の皆様のライフスタイルを見直すきっかけづくりとしています。



# 福岡県補助事業

## 2 推進員、地域 NPO 等活動支援

### 2-1 啓発資料の貸出

県センターでは、推進員や NPO のほか、一般県民を対象に地球温暖化に関する普及啓発ができる資料を貸出しています。

2021 年度は、エコトン着ぐるみを 16 回貸出しました。また、DVD (5 回)、パネル (7 回)、教材 (4 回)、図書 (19 回)、イベント資料 (6 回)、体験学習資料 (7 回) を合わせて 48 回貸出しました。

資料名	タイトル	件数
DVD	気候変動への挑戦	3
DVD	福岡水素戦略	2
パネル	2100年の福岡	3
パネル	気候変動	3
パネル	地球温暖化ってなんだろう	1
教材	家庭のエコ	4
図書	「はかって、へらそうCO2 1.5°C大作戦 ①はかる編」	5
図書	「はかって、へらそうCO2 1.5°C大作戦 ②へらす編」	5
図書	「今日からはじめる省エネ教育」	5
図書	「最近、地球が暑くてクマってます」	4
イベント資料	エコトンパネル	3
イベント資料	スタッフジャンパー	3
体験学習資料	LED・電球エネルギー比較実験器	3
体験学習資料	LED・白熱・蛍光灯比較実験器	1
体験学習資料	手回し発電器	1
体験学習資料	スマートムーブ体験模型	1
体験学習資料	エコ住宅体験模型	1
合計		48

### 2-2 推進員地域連絡会

#### ■ コロナ禍での推進員活動

2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各地域イベントはほぼ中止となりました。そのような状況の中、久留米・北筑後地域と大牟田・南筑後地域ではオンラインセミナーを開催しました。

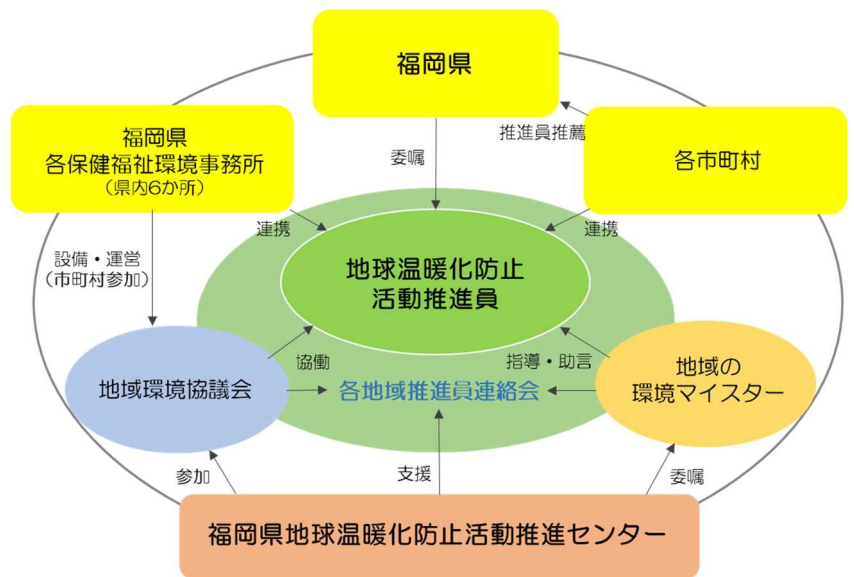
推進員地域連絡会は、感染拡大状況を考慮して、集合形式、オンライン (Zoom) 形式、書面形式の 3 つを地域の事情に合わせて選択して、開催しました。2021 年度は Zoom によるオンライン連絡会を宗像・遠賀地域、北九州・京築地域及び筑豊地域で開催しました。



上段：久留米・北筑後地域のオンラインセミナーの様子  
下段：北九州・京築地域のオンライン連絡会の様子

#### 推進員の支援体制

県センターでは、福岡県保健福祉環境事務所が所管する 6 地域をベースに、行政と推進員らの連携強化を図るための推進員地域連絡会を設置し、推進員活動を支援しています。



福岡県補助事業では、推進員が地域活動を行う予算として計 150 万円 (1 地域 25 万円) を計上しています。この予算は、主に推進員地域連絡会の開催、地域イベントのブース出展、エコ出前講座の開催等の費用等で使われています。



# 福岡県補助事業

## 2 推進員、地域 NPO 等活動支援

### 地域連携エコ活動支援金の運用

コロナ禍で地域イベントがほとんど中止になる中、筑豊地域では道の駅で「エコふぁみ」アプリインストール会を開催し、アプリの普及啓発活動を行いました。その他、コロナ対策を実施しながらの講座の開催、推進員活動で使う教材・資料を作成しました。

#### ■ 地域での普及啓発活動

##### 「エコふぁみ」アプリインストール会

開催日時：1月16日（日）11:00～13:00  
開催場所：道の駅 いとだ

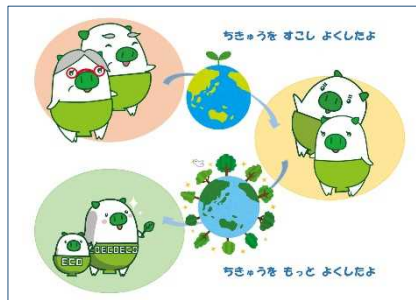
概要：「エコふぁみ」アプリのパネルを設置して、チラシを配布しながらインストールを呼び掛けました。インストールして下さった方には、道の駅の物産品や野菜、エコグッズなどが賞品として当たるガラポンくじを引いてもらいました。



#### ■ 教材の作成

##### 紙芝居の作成・増刷

3世代まるごとエコ出前講座は、保育園・幼稚園の園児たちを対象として講座をします。温暖化について園児に説明する場合、紙芝居を使うと子供たちの興味を引くことができるため効果的です。2021年度は利用頻度の高い紙芝居を増刷しました。また、親から子へ地球をつないでいくイメージの絵を追加しました。

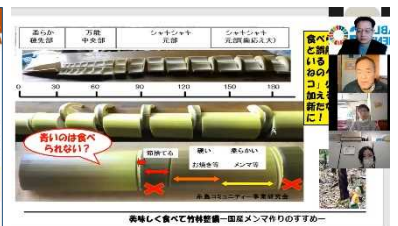


#### ■ 講座

##### 荒廃放置竹林対策講座

開催日時：2月4日（金）13:30～16:00  
開催場所：オンライン（Zoom）

概要：地球温暖化の影響で生育域が北上している外来種の孟宗竹が環境に与える影響と孟宗竹と共生する方法の一つとして、食品加工（メンマ）して利用する方法について、オンライン講座を実施しました。



推進員活動件数：7回

啓発人数：111人

CO<sub>2</sub>みなし削減量：15.3t-CO<sub>2</sub>/年

#### ■ 年間換算みなし CO<sub>2</sub>削減量の算出方法

人数×0.138t/人・年×1.0（展示・講演等）＝●●t-CO<sub>2</sub>/年

※出典：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

「平成28年度地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業委託業務報告書」

※以降、注釈がないものについては、この方法で算出しています

### 2-3 講師派遣

#### エコアドバイザー派遣

県センターでは、幼稚園・保育園の園児から高齢者までの幅広い年代を対象に、講師を派遣して地球温暖化防止等について啓発しています。

##### ■エコアドバイザー派遣

主に一般県民や、小学生以下の児童を対象とした講師派遣事業です。

市民を対象としたグリーンカーテン講座、気候変動や温暖化に関する講座のほか、小学生を対象とした生物多様性に関する講座、夏休みや冬休みの学童保育所を対象とした地球温暖化や SDGs に関する講座等、内容は多岐に渡ります。

##### ■3世代まるごとエコ出前講座

3世代まるごとエコ出前講座はエコアドバイザー派遣の一つで、幼稚園・保育園の園児、園児の保護者、そして園児の祖父の3世代にわたりエコ活動を普及啓発することを目的とした出前講座です。



#### エコアドバイザー派遣による講座の開催

2021 年度はコロナ禍の中、感染対策を行いながら一般県民、小学生を対象とした講座を 43 回実施しました（3 世代まるごとエコ出前講座は含まず）。

今年度の講座は希望するテーマとして、SDGs に関連する内容が多い傾向にありました。



#### 3 世代まるごとエコ出前講座の開催

本講座は、水、食、ごみ等を通じて環境や地球温暖化について学習し、子どもたち自身ができることについて学ぶものです。講座後に子ども環境家計簿食育編を渡し、家に持ち帰って子どもたちが保護者と一緒にエコ活動を実践してもらいます。

希望の園には祖父母に送るポストカードを、また各園にはエコについて学べる絵本をそれぞれ進呈しています。1 回限りの講座では定着しにくいエコ活動について、絵本で繰り返し読み聞かせることで、その定着を図っています。

本講座は大変好評で、毎年多くの申し込みがあります。2021 年度は新型コロナウイルス感染症が拡大した期間に中止になった講座もありましたが、計 48 箇所の園で講座を実施しました。

講座回数：91 回（計画 100 回）

啓発人数：4,833 人

小学校等の派遣による CO<sub>2</sub> みなし削減量：

啓発人数：2,202 人 **303.9**t-CO<sub>2</sub>/年

幼稚園・保育園の派遣による CO<sub>2</sub> みなし削減量：

啓発人数：2,631 人 **363.1**t-CO<sub>2</sub>/年

### 環境マイスター派遣

#### ■環境マイスター派遣

主に中学校以上の教育機関、企業、市・教職員等を対象とした講師派遣事業です。

教職員を対象とした環境教育に関する講演、EA21 取得希望事業者への支援、地域の環境教育・環境行政に携わる人々を対象とした講演等を行っています。

環境マイスターは、規定の有資格者（技術士（環境部門）、エネルギー管理士、エコアクション 21 審査員、環境カウンセラー等）、もしくは同等の知識を有していると認められる方で、令和 3 年度 3 月末時点での登録者は 38 名です。

2021 年度は、企業研修や大学、高校での授業に環境マイスターを派遣しました。

講座回数： **17** 回（計画 25 回）

啓発人数： **431** 人

CO<sub>2</sub> みなし削減量： **59.5**t-CO<sub>2</sub>/年

### うちエコ診断

#### ■うちエコ診断制度

うちエコ診断では、資格を持ったうちエコ診断士が受診家庭とのコミュニケーションを通じて、ご家庭に合わせたオーダーメイドのエネルギー対策・地球温暖化対策を提案しています。

2021 年度のうちエコ診断は計画 50 世帯に対し、25 世帯が受診しました。事後調査票の結果をみると、本事業による CO<sub>2</sub> 削減量は 5.7t-CO<sub>2</sub>/年と推定されます。

受診者の市町村別実施件数

No	市町村名	実施形態	件数
1	古賀市	受診者自宅、会場	14
2	福岡市	受診者自宅、会場、Zoom	4
3	大牟田市	会場	3
4	久留米市	会場	1
5	宗像市	会場	1
6	福津市	会場	1
7	宇美町	Zoom	1
計			25

2021 年度は新型コロナウイルス感染症対策として、通常モニター1 台を受診者と診断士が横並びで見ながら実施するうちエコ診断を、オンライン（Zoom）やモニター2 台（受診者自宅・会場診断）を使って実施しました。

オンライン形式では Zoom アプリを利用し、うちエコ診断実施機関である県センターがホストを務め、受診者、診断士ともに自宅から Zoom を使って実施しました。3 者とも移動なしで診断できるため、今後もオンラインで対応可能な受診者にはぜひこの方法で受診してもらいたいと思います。

モニター2 台を使つての診断では、診断士のパソコン画面を受診者のモニターに映すことで、距離をとって診断を実施することができました。

#### ■うちエコ診断士支援

2021 年度は新たにうちエコ診断士 1 名を登録しました。うちエコ診断士は、うちエコ診断士資格試験に合格後、うちエコ診断実施機関への登録が必要です。県センターでは登録に必要な「うちエコ診断士スキル審査」を実施し、その合格者に対して、登録時研修を行いました。

受診者数： **25** 人

CO<sub>2</sub> みなし削減量※：

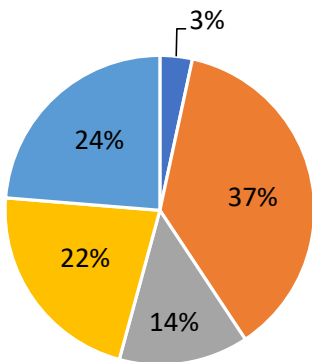
**5.7**t-CO<sub>2</sub>/年

※CO<sub>2</sub> みなし削減量は、うちエコ診断事後調査票から算定



### メルマガによる情報発信

県センターでは、推進員のスキルアップや最新情報の取得を目的として、推進員と地域の環境マイスター宛てに情報発信を月 2~8 件程度（計 63 件）行いました。主な内容は、研修やフォーラムの開催案内、省庁や研究機関による最新研究、エコふあみアプリなどについてです。



推進員向けメルマガの内容について

- エコふあみ：アプリに関すること
- イベント告知：各種フォーラム・研修会などの告知
- 論文・研究：省庁や研究機関が出した研究発表等
- 推進員活動：推進員活動にかかる事項
- その他

コロナ禍でセミナーやフォーラムは集合形式からオンライン形式に代わり、会場に出向く必要がなく、自宅等から参加できるようになりました。2021 年度は計 22 件のイベント情報を推進員に発信しました。また、2021 年 8 月に IPCC 第 6 次評価報告書第 1 作業部会報告書が公開されたため、これに関連する講演や動画について周知しました。

新型コロナウイルス感染症が人の移動や生活様式に多大なる影響を与えた結果として、人と人が直接に接触しないオンライン形式での情報提供が増えました。メルマガではそれらの情報をタイムリーに提供することが可能なため、今後も活用し、推進員のさらなるスキルアップに役立てたいと考えています。

### うちエコ診断 WEB サービス

2021 年度から家庭エコ診断制度のホームページで、「うちエコ診断 WEB サービス」がスタートしました。これはパソコン、スマートフォン、タブレット端末で利用できる WEB ブラウザ上で動くソフトで、今まではうちエコ診断士が受診家庭とコミュニケーションを取りながら実施していたうちエコ診断を受診者本人がデータを入力することで、自己診断できるサービスです。

診断結果では、受診者の住まいやライフスタイルから、光熱費を減らせる部分や二酸化炭素の排出量がわかります。また、住まいに合わせた診断や省エネ家電の買い替えシミュレーションを行うこともできます。

時間や場所を気にせず、自分で診断できるうちエコ診断 WEB サービスを県民の皆さんに使っていただけるように普及啓発するとともに、よりきめ細かいケアが可能な「うちエコ診断士によるエコ診断」も受診していただくことで家庭からの二酸化炭素排出量の削減につながっていくと考えられます。





## 3-1 照会・相談

県センターでは、県民からの地球温暖化等に関する照会、相談等について随時受け付けています。  
2021年度は、福岡女子大学の学生から地球温暖化防止活動推進センターの事業内容等についてヒアリングを受け、講師派遣制度等の説明を行いました。

## 4-1 NPO・団体との連携

県センターでは、NPO、企業、団体等からの依頼を受けて、講演やイベント出展等を行っています。  
2021年度はコロナ禍の影響でほとんどのイベントが中止となり、各種団体との連携活動を行うことができませんでした。

## 4-2 協議会等への参画

県センターでは、県内で開催される地球温暖化等に関する協議会や委員会等への参画、講演等を行いました。  
今後もあらゆる機関と協働して、気候変動等に関する活動を活発化させていきます。

センターが参画した協議会等一覧（令和3年度）

	開催日	名称	支援内容	備考
1	5月25日	令和3年度福岡市地球温暖化対策市民協議会総会	幹事会委員	オンライン会議
2	7月2日	令和3年度第1回福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	協議会委員	対面会議
3	7月6日	令和3年度第1回福岡県気候変動適応協議会	協議会委員	オンライン会議
4	8月10日	令和3年度第2回福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	協議会委員	書面会議
5	10月12日	令和3年度第3回福岡市地球温暖化対策実行計画協議会	協議会委員	オンライン会議
6	11月10日	令和3年度工コ事業所表彰審査会	審査会委員	対面会議
7	11月29日	第55回気象情報連絡会	連絡会委員	オンライン会議
8	12月20日	令和3年度第1回久留米市地球温暖化対策協議会	協議会委員	対面会議
9	2月9日	九州地域エネルギー・温暖化対策推進会議	会議構成員	オンライン会議
10	2月21日	第7回気候変動適応九州・沖縄広域協議会	構成員以外 (その他関係者)	オンライン会議
11	3月23日	令和3年度第2回福岡県気候変動適応協議会	協議会委員	オンライン会議

### 5-1 温室効果ガス排出量

県センターでは、特定事業者からのアンケート回答、国や県等の統計データをもとに、2019年度福岡県内の温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）を算定しました。

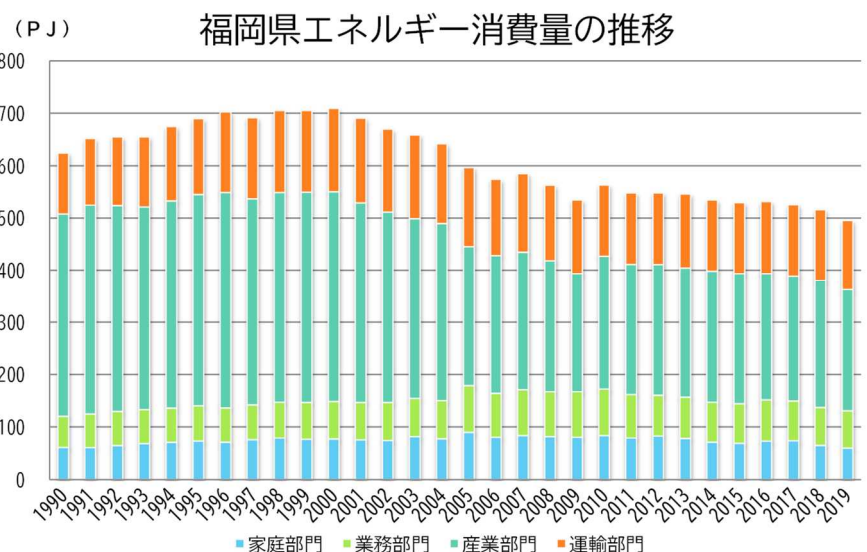
- ・2019年度の温室効果ガス総排出量は4,630万トン。
- ・基準年度（2013年度）と比べて25.2%減少、前年度より3.0%減少。
- ・廃棄物分野と一酸化二窒素、代替フロン等4ガスが基準年度と比べて、業務部門と一酸化二窒素が前年度と比べて増加。
- ・温室効果ガス総排出量が基準年度比で減少した主な要因として、省エネ意識の高まりや高効率設備の導入等により、エネルギーの高効率利用が進んだこと、また暖冬で暖房設備の使用が減少したこと等が考えられます。

福岡県の温室効果ガス総排出量総括表

温室効果ガス排出区分	基準年度 2013年度 (万トンCO <sub>2</sub> )	前年度 2018年度 (万トンCO <sub>2</sub> )	増減率 対前年度 (%)	現況年度 2019年度 (万トンCO <sub>2</sub> )	増減率 対基準年度 (%)	(参考) 全国の増減率 対基準年度 (%)
合計	6,187	4,772	-3.0	4,630	-25.2	-14.0
二酸化炭素	6,100	4,690	-3.1	4,543	-25.5	-15.9
エネルギー起源	5,402	3,963	-1.8	3,891	-28.0	-16.7
エネルギー転換部門 (発電所等)	65	44	-15.2	37	-42.6	-15.9
家庭部門	1,009	499	-4.4	477	-52.7	-23.3
業務部門 (商業・サービス・事業所等)	1,113	584	5.0	614	-44.9	-18.8
産業部門 (製造業等)	2,247	1,916	-3.0	1,857	-17.3	-17.0
運輸部門 (自動車等)	969	921	-1.6	906	-6.5	-8.2
非エネルギー起源	698	727	-10.2	653	-6.4	-3.8
工業プロセス分野 (セメント製造等)	613	582	-2.8	565	-7.8	-7.4
廃棄物分野 (一廃・産廃等)	85	145	-39.9	87	3.4	3.2
メタン	36	33	-0.7	32	-9.3	-5.4
一酸化二窒素	44	41	12.4	46	5.7	-7.5
代替フロン等4ガス (HFC、PFC、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> )	7	8	-2.5	8	5.0	41.7

### 5-2 エネルギー消費量

- ・2019年度のエネルギー消費量は495PJ（ペタジュール）。
- ・基準年度（2013年度）と比べて9.3%減少、前年度より4.0%減少。
- ・家庭部門は、世帯数が基準年度と比べて6.6%増加しているものの、基準年度比23.4%減少、前年度比8.0%減少。
- ・家庭部門のエネルギー消費量が減少した要因として、2019年度は夏に涼しく、冬に暖かい傾向にあったため、冷暖房用エネルギー需要が減少したことや省エネ家電製品の普及が考えられます。
- ・業務部門は基準年度比で9.7%減少、前年度比1.5%減少。





福岡県では、家庭生活や事業活動におけるエネルギー使用の状況・方法等の見直しを促すことによって、エネルギーの有効利用とCO<sub>2</sub>排出量の減少を図ることを目的に、「エコファミリー応援事業」を実施しています。

県センターは講習会等でのエコふあみアプリを紹介したほか、エコファミリーから提出されたデータの入力、取組結果を用いた事業効果分析、エコふあみユーザーを対象としたアンケート調査分析等を行いました。

### 6-1 エコファミリー募集

食中毒予防講習会や道の駅、商業施設等、5カ所（計9回）でエコふあみアプリの街頭啓発を行いました。またSNSでハッシュタグ#エコふあみとつけてつぶやくなどして、SNSユーザーに周知しました。



### 新聞広告の掲載

県内で最も購読数の多い西日本新聞朝刊に、1月30日、2月10日、2月19日の計3回エコふあみアプリ広告を掲載しました。広告内にはダウンロード用のQRコードを掲載したほか、すべて違う内容にすることで、様々な年齢層への啓発を行いました。



### 大型商業施設での街頭啓発

大型商業施設の博多マルイで開催されたイベント「インクルージョンフェス2022 in 博多マルイ」に温防センターのブースを出展し、来店者にエコふあみアプリの街頭啓発を行いました。イベントでは気候変動に関するパネルを展示し、関連する知識を深めてもらうとともに、エコふあみアプリの紹介とインストールをお願いしました。

また、このイベントはアプリポイントの対象としていたことから、「エコふあみアプリ内のお知らせ」を見て来店したユーザーもおり、既存ユーザーに対しても気候変動に関する啓発の機会となりました。



↑ パネルを使ったアプリインストール方法の説明

→ アプリインストール者への景品



街頭啓発数：計 **9** 回

### 6-2 削減効果分析

県センターでは、エコファミリーからの半年分の取組報告データを入力、報告データを用い、節電効果分析、CO<sub>2</sub>削減効果分析を行いました。

#### ■ ステージ別報告内容

- ・第1ステージ：電気使用量
- ・第2ステージ：電気・ガス・水道使用量
- ・第3ステージ：電気・ガス・水道・車燃料・灯油使用量・燃えるゴミ排出量

#### ■ 半年分の取組

ステージごとに、半年分の電気・水・ガス等のエネルギー使用量、ガソリン・軽油・灯油購入量、可燃ごみの廃棄量等の報告を入力。

2020 年度下半期報告数：650 世帯  
2021 年度上半期報告数：519 世帯

#### ■ 分析方法

- ・節電効果分析  
世帯人員別・住居形態別(戸建、集合)電気使用量から CO<sub>2</sub> 排出量の算定、前年度比で節電効果を分析
- ・属性別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析  
世帯人員別各エネルギー使用量の集計結果より、エネルギー種別 CO<sub>2</sub> 排出量の算定、前年度比で属性別 CO<sub>2</sub> 削減効果を分析
- ・ステージ別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析  
ステージ別エネルギー使用量から CO<sub>2</sub> 排出量の算定、前年度比でステージ別 CO<sub>2</sub> 削減効果を分析

### 2020 年度下半期

- ・分析対象は無効データを除く 293 件。
- ・節電効果分析では、電気使用量は約 1.6 万 kWh 増加、それに伴い CO<sub>2</sub> 排出量が 1.1t-CO<sub>2</sub> 増加。
- ・属性別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析では、世帯人員別では 2 人世帯を除くすべての世帯人員で増加。エネルギー種別では、ガソリン、軽油、可燃ごみで削減、電気、ガス、水道、灯油では削減できず。
- ・ステージ別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析では第 3 ステージで 1.8t-CO<sub>2</sub> 削減、第 1、第 2 ステージでは増加。

電力増加量：+16,769kWh/半年

CO<sub>2</sub> 増加量※：+1.1t-CO<sub>2</sub>/半年

※電気削減量…エコファミリー実績報告をもとに算出

### 2021 年度上半期

- ・分析対象は無効データを除く 269 件。
- ・節電効果分析では、電気使用量を約 3.0 万 kWh 削減、それに伴い CO<sub>2</sub> 排出量は 1.6t-CO<sub>2</sub> 削減。
- ・属性別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析では、世帯人員別では 5 人以上の世帯を除きすべての世帯人員で削減。またエネルギー種別では、ガソリン以外のすべてのエネルギーで削減。
- ・ステージ別 CO<sub>2</sub> 削減効果分析ではすべてのステージで 3~6%弱削減。

電力削減量：29,900kWh/半年

CO<sub>2</sub> 削減量※：1.6t-CO<sub>2</sub>/半年

※CO<sub>2</sub>削減量はエコファミリー実績報告をもとに算出

### 年間削減効果の考察

- ・2020 年 10 月~2021 年 9 月までの 1 年間で、トータルで電気使用量、CO<sub>2</sub> 排出量ともに対前年比削減となりました。
- ・前年と比べて冬はやや寒くなったことによる暖房需要の増加や、コロナ禍のため家で過ごす時間が増えたことが、冬季の CO<sub>2</sub> 排出量増加の要因と考えられます。
- ・一方、夏は期間平均気温が前年を上回っていたものの対前年比で削減となりました。省エネ啓発効果がみられるものと考えられます。

電力削減量：13,131kWh/年

全体の CO<sub>2</sub> 削減量※：0.5t-CO<sub>2</sub>/年

※CO<sub>2</sub>削減量はエコファミリー実績報告をもとに算出



# 福岡県委託事業

## 7 省エネルギー相談事業

福岡県では、事業者部門からの温室効果ガス排出量を削減することを目的に、現有設備の運用改善や更新などを検討されている県内の事業所を対象に、省エネに関するアドバイスを無料で行う「省エネルギー相談事業」を実施しています。

県センターでは、申込があった事業所に専門家を派遣し、専門家の相談回答書を点検、交付するほか、事業効果を確認するためのアンケート調査等を行っています。

### 7-1 事業の概要

#### ■対象

福岡県内の事業所：70社

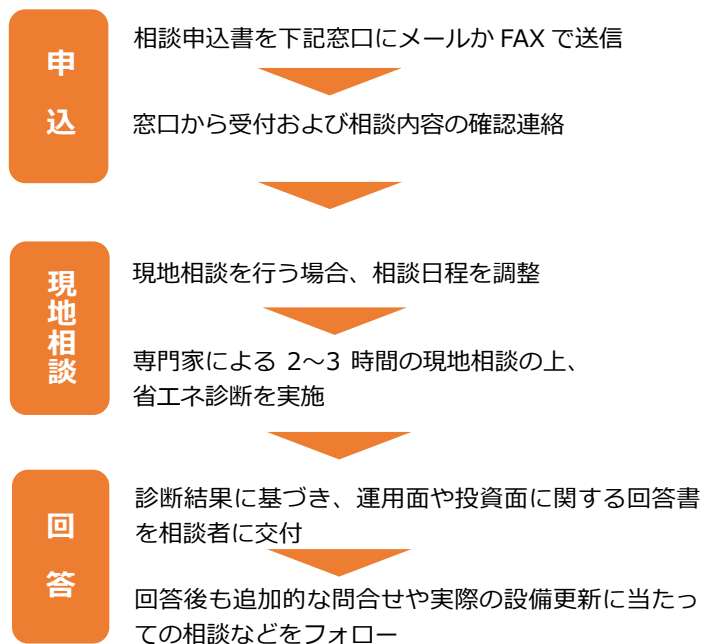
#### ■内容

専門家より、事業者に対し設備の運用改善方法・省エネ型設備への更新による経済効果等の助言、助成制度の情報提供等各種支援を無料で行いました。

#### ■事業者のメリット

- ・コスト削減
- ・業務改善
- ・人材育成
- ・地球温暖化防止への貢献

### 事業フロー



### 7-2 実績及び効果

電話・メールでの相談：16件

現地相談：70件

運用改善・設備更新による省エネ効果

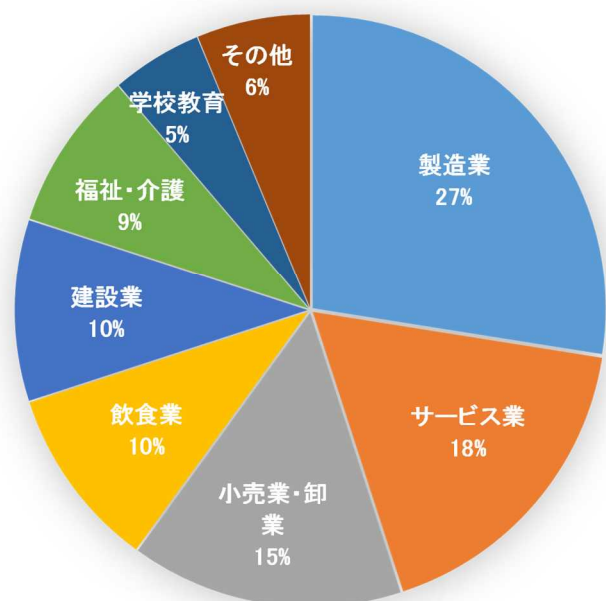
電力削減量：

1,696千 kWh/年

CO<sub>2</sub>削減量※：619t-CO<sub>2</sub>/年

※CO<sub>2</sub>削減量 = 電力削減量 (kWh) × 0.365 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (2020年度実排出係数)

### 現地相談事業所の業種内訳



# 環境省補助事業

## 8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

県センターでは環境省補助事業として、昨年度に引き続き、九州産業大学、福岡女子大学、福岡大学の協力のもと、授業の中で気候変動に関する講座等を行いました。また、オンラインによるサイエンスカフェも実施しました。事業者支援として、福岡県環境家計簿エコ事業所編を一新した「エコ事業所応援 book」を県内約 2,800 の事業所に配布しました。

その他、推進員の資質向上のため推進員研修や九州沖縄ブロックの合同研修会等の企画・運営を行いました。

### 8-1 大学との連携による COOL CHOICE 普及啓発

受講者数：133 人

CO<sub>2</sub> みなし削減量：  
18.4t-CO<sub>2</sub>/年

#### ■ 講座

開催日時：10月4日（月）10：40～11：10

開催場所：福岡大学（参加者数 90 人）

※リモートによる開催

開催日時：12月15日（火）8：30～10：10

開催場所：福岡女子大学（参加者数 27 人）

気候変動に関する現状と将来予測、適応策などを紹介したほか、自分たちができる COOL CHOICE として、大量のエネルギーを使用して生産される肉食材の削減、公共交通機関の利用促進、カーシェアなどを紹介しました。

また、福岡女子大の講座では 2050 年温室効果ガス排出実質ゼロ宣言について触れ、排出を限りなくゼロに近づけつつ、どうしても出してしまう部分については BECCS（「二酸化炭素回収・貯留」技術にバイオエネルギー利用を組み合わせる CO<sub>2</sub> を回収する技術）や DAC（CO<sub>2</sub> を直接空気から回収する技術）などの技術を用いる方法があることについても言及しました。

#### ■ グループワーク

開催日時：12月9日（木）11：00～12：40

開催場所：九州産業大学（参加者 13 人）

テーマ：「1 人 1 年あたりのカーボンフットプリント 3,000 kg を達成できるような社会とは？」

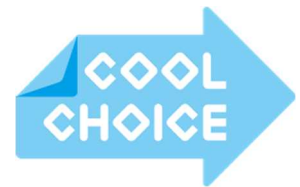
なぜ脱炭素が必要なのかについての情報提供、国環研らの「国内 52 都市における脱炭素型ライフスタイルの選択肢」を紹介し、福岡市民としてカーボンフットプリント 3,000 kg にするためのライフスタイルとは、また課題と解決する方法についてグループワークを行いました。

### 大学での気候変動・COOL CHOICE 普及講座

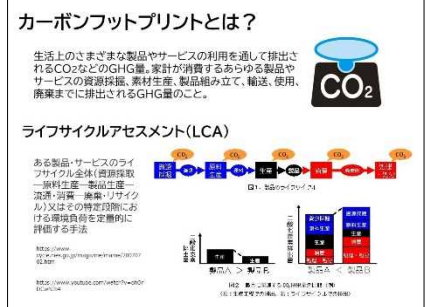
県内の 3 大学（福岡大学、九州産業大学、福岡女子大学）の学生を対象に講座を行い、気候変動や COOL CHOICE の普及促進を図りました。

本講座では、気候変動の現状と将来予測、2050 年カーボンニュートラル、個人でできる温暖化対策の具体的な内容などについて説明しました。

なお、3 大学のうち 2 大学はリモートによる開催で、1 大学は講座と併せてワークショップも行いました。



マスクの着用、窓を開けて常時換気しながらのグループワークとなりました。



講座資料一部抜粋



# 環境省補助事業

## 8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

### 8-2 サイエンスカフェの開催

身近な環境問題に関心のある市民、大学生を対象にサイエンスカフェを開催しました。大学授業後でも参加しやすいよう、18時からの開催としました。

- 開催日：12月2日（木）  
「近年の気象と災害」  
講師：藤川文男氏  
（気象防災アドバイザー）

- 開催日：12月8日（水）  
「EVの普及動向と、脱炭素化における役割」  
講師：櫻井啓一郎氏  
（国立研究開発法人産業技術総合研究所）

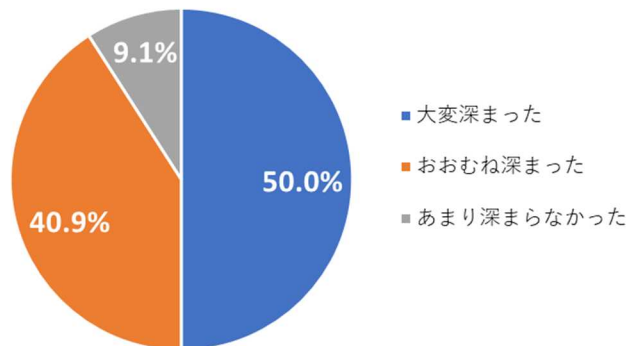
- 開催日：12月15日（水）  
「SDGsとは何か」  
講師：眞鍋和博氏  
（北九州市立大学教授）

サイエンスカフェのテーマは昨今話題のキーワードから「豪雨災害」「EV」「SDGs」としました。

コロナ対策としてオンライン（Zoom）にて実施し、参加者・講師ともに遠隔からご参加いただきました。講師からの情報提供のあと、40分程度活発な質問・意見交換が行われ、有意義な時間となりました。

カフェ後のアンケートでは、サイエンスカフェ参加前と比べて、テーマへの理解が深まったと90%以上が回答し、講座内で言及された行動変容が期待できます。

Q.サイエンスカフェの参加前と比べて、今回のテーマへの理解が深まったと思いますか？

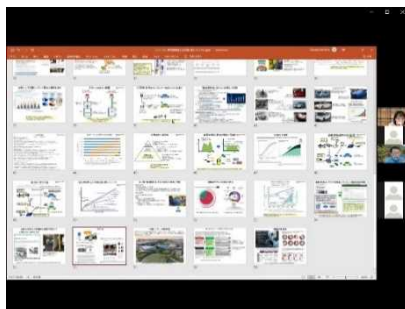


参加者数：

延べ **39** 人

CO<sub>2</sub> みなし削減量：

**5.4**t-CO<sub>2</sub>/年



EVをテーマとした回では、様々なエピソードをご紹介いただきながらのお話で、大変興味深く伺えました。



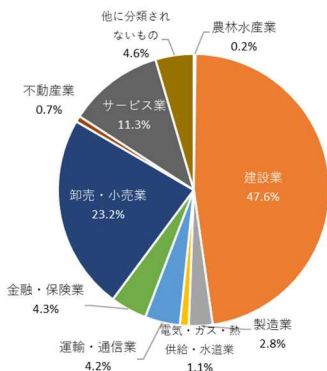
募集にあたってチラシを作成。エコライフ応援サイト、メールなどを通じて参加者を募集しました。

### 8-3 エコ事業所支援

#### ■エコ事業所応援事業

福岡県では省エネ等環境に優しい活動に取り組むことを宣言した事業所を「エコ事業所」として登録して様々な支援を行っています。

福岡県内のエコ事業所



2,372 事業所が登録されています (R3.7月現在)。

#### ■温対法の改正

温対法の改正に伴い、地域センターの役割に事業所向けの啓発広報活動が加わりました。県センターでは、2022年4月法施行に先んじてエコ事業所を対象として、これからの事業者支援のための冊子を作成、送付し、セミナー等を通じて内容の紹介を行いました。



表紙は青空のもとにある太陽光発電と風力発電の写真としました。これからは再生可能エネルギーの導入が最も重要だというメッセージを込めています。

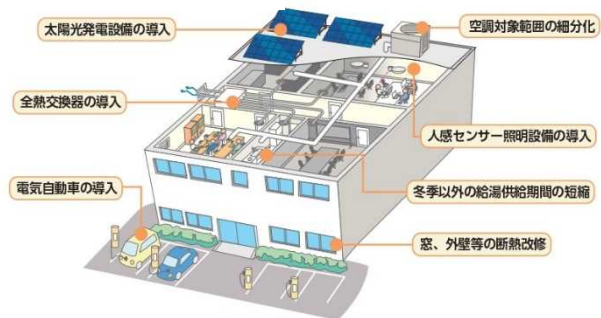
### ふくおかエコ事業所応援 book

本書は、実践編（事業所の省エネ対策や省エネ相談事業、融資制度、EA21の導入支援の紹介など）と知識編（気候変動の現状と国内外の動向、脱炭素経営の考え方・手順、SDGsの取組など）の2部構成としました。

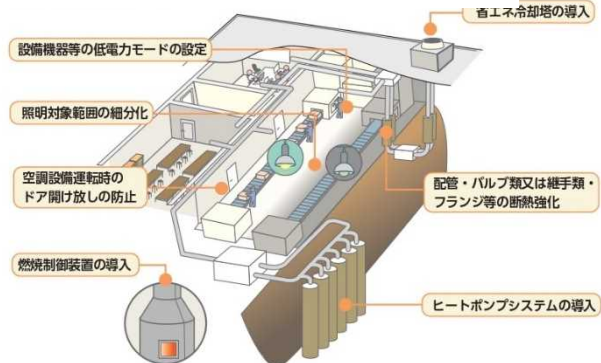
本書は県内約2,800事業所に配布しました。本書を通じて多くの事業所がこれまでより一層の省エネを促進し、脱炭素経営を始めるきっかけになればと期待しています。

#### 事業所の省エネ対策

##### ●事務所でできる対策



##### ●工場のできる対策



※事業所のどんなところが省エネのポイントかを図で示しています。

#### SDGs (Sustainable Development Goals)

SDGsとは2015年に国連で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」で、国連加盟193カ国が達成を目指す2016年～2030年までの国際目標です。「誰ひとり取り残さない」という共通理念のもと、17の目標と169のターゲットで構成されています。SDGsには5つの主要原則が求められています。

1. 普遍性	国内実施と国際協力の両面で率先して取り組む
2. 包摂性	人権の尊重とジェンダー平等の実現を目指し、脆弱な立場の人々まで誰ひとり取り残さない
3. 参画性	あらゆるステークホルダーや当事者の参画を重視し、全員参加型で取り組む
4. 統合性	経済・社会・環境の3分野の統合的解決の視点を持って取り組む
5. 透明性と説明責任	取り組み状況を定期的に評価、公表する

※SDGs経営とはどういったものなのか、チェックポイントなどを紹介しています。



# 環境省補助事業

## 8 地域における地球温暖化防止活動促進事業

### 8-4 うちエコ診断ソフトの普及啓発

環境省が推進する「うちエコ診断 WEB ソフト」が2021年6月から本格運用が始まりました。うちエコ診断は家庭部門のCO<sub>2</sub>排出量削減のための有効ツールとして期待されることから、WEBソフトの紹介チラシを作成、県内市町村等に配布し、普及を呼びかけました。

また、エコふぁみユーザーに向けてWEB診断の受診報告をしたユーザーに50ポイントを付与するサービスで、普及促進を図りました。

**WEB診断受診者数：405人**  
※令和4年2月末現在

### 啓発チラシの作成・配布

うちエコWEB診断の受診方法、エコふぁみポイントの応募方法、省エネ対策を記載したチラシを3,000部作成し、県内60市町村に配布しました。

また、古賀市と協力して市オリジナルのチラシを作成、回覧版や市の広報誌を通じてうちエコ診断イベント及びWEB診断を広く周知しました。



### リーパスプラザでのイベント開催

古賀市リーパスプラザこがにおいて、うちエコ診断の啓発と気候変動に関するパネルを展示したイベントを2回行いました。

- 開催日：10月14日、11月10日  
開催時間：10～16時  
開催場所：リーパスプラザこが1F

**本診断申込：12件**  
**WEB診断受診：11件**  
**簡易診断受診：1件**  
**アンケート回答：26件**

パネル展示では、SDGsや気候変動の影響で家庭の省エネが重要であることを周知しました。また、うちエコ簡易診断及びWEB診断サポートスペースを設け、12月の診断会への申込を受付けました。

エコふぁみユーザーにはイベントへの参加でポイントがもらえることを周知し、来場を呼びかけました。



当日はエコふぁみアプリダウンロードもご案内しました。

### 8-5 推進員等の支援

#### ■ 推進員研修

県センターでは、年1回県センター主催の推進員研修会を開催しています。

2021年度はコロナ禍により、集合形式ではなくオンライン形式で行いました。

開催日：10月8日（金）

開催時間：14：00～16：00

開催方法：オンライン（Zoom）

県内5カ所会場（環境事務所

4カ所、センター）

参加者数：62人

#### 福岡県地球温暖化防止活動推進員研修会

今回は国立環境研究所の江守氏に「気候危機のリスクと社会の大転換」と題し、脱炭素社会の実現のために、社会そのものの仕組みや考え方を変えていく必要があるということについて講演をいただきました。

また、福岡県気候変動適応センターの高尾氏からは同センターの活動紹介の後、両センターで緩和と適応の両面からの普及啓発が必要であることを確認し、推進員らとも協力して啓発活動を行っていくとしました。



ご紹介のあった適応センターのパンフレットは、その後推進員全員に配布しました。

### 九州沖縄ブロック地域推進員・センターの支援

九州・沖縄ブロックの地域センターは、合同研修会等を毎年開催しています。今年度は福岡県センターが幹事となって九州沖縄ブロックの推進員を対象とした研修会、及びセンター職員を対象とした講習会を企画、運営しました。

#### ■ 九州沖縄ブロック合同推進員研修会

開催日：11月26日（金）

開催時間：13：30～16：30

開催方法：オンライン（Zoom）

参加者数：33人

内容：

- ・事例紹介「コロナ禍で工夫して実施した啓発活動について」
- ・グループワーク「with コロナの環境啓発活動の方法について」

#### ■ 九州沖縄ブロック合同センター講習会

開催日：1月18日（火）

開催時間：13：30～16：30

開催方法：オンライン（Zoom）

参加者数：14人

内容：

- ・講演「中小規模事業者の脱炭素経営に向けた基本的な考え方」
- ・情報提供「事業者啓発に関わる最新情報」
- ・意見交換「事業者への啓発広報の進め方、あり方について」

推進員研修会では、コロナ禍で活動が縮小している中、工夫して実施した啓発活動をセンターごとに発表してもらい、今後の推進員活動のヒントにしてもらいました。またグループワークでは、グループごとに対象を限定した上で、どのような推進員活動ができるかを企画し、発表して共有しました。

センター職員講習会では、環境省九州地方環境事務所の玉城氏のご講演後、既に事業者支援を行っている地域センターからどのような活動を行っているのかを情報提供してもらいました。また意見交換では、今後事業所への啓発を進める上でどのような課題があるのか、また解決策があるとすればどのような方法かを議論、発表して共有しました。



## 今後の課題

おわりに、2021 年度に県センターが実施した事業を振り返るとともに、今後の課題や展望について以下のとおり記します。

### オンラインの活用

2020 年 1 月上旬に新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから、センターの事業や推進員活動が中止になるなど普及啓発活動に多大な影響が続いています。この影響を少しでも軽減するように昨年度から WEB による情報発信の強化やオンライン講座などを取り入れ、2021 年度も積極的に活用しました。オンライン講座では、移動の制限がないため遠方の方に講師をお願いできる利点があります。今後も講座や会議等ではオンラインの利用を検討し、積極的に活用します。

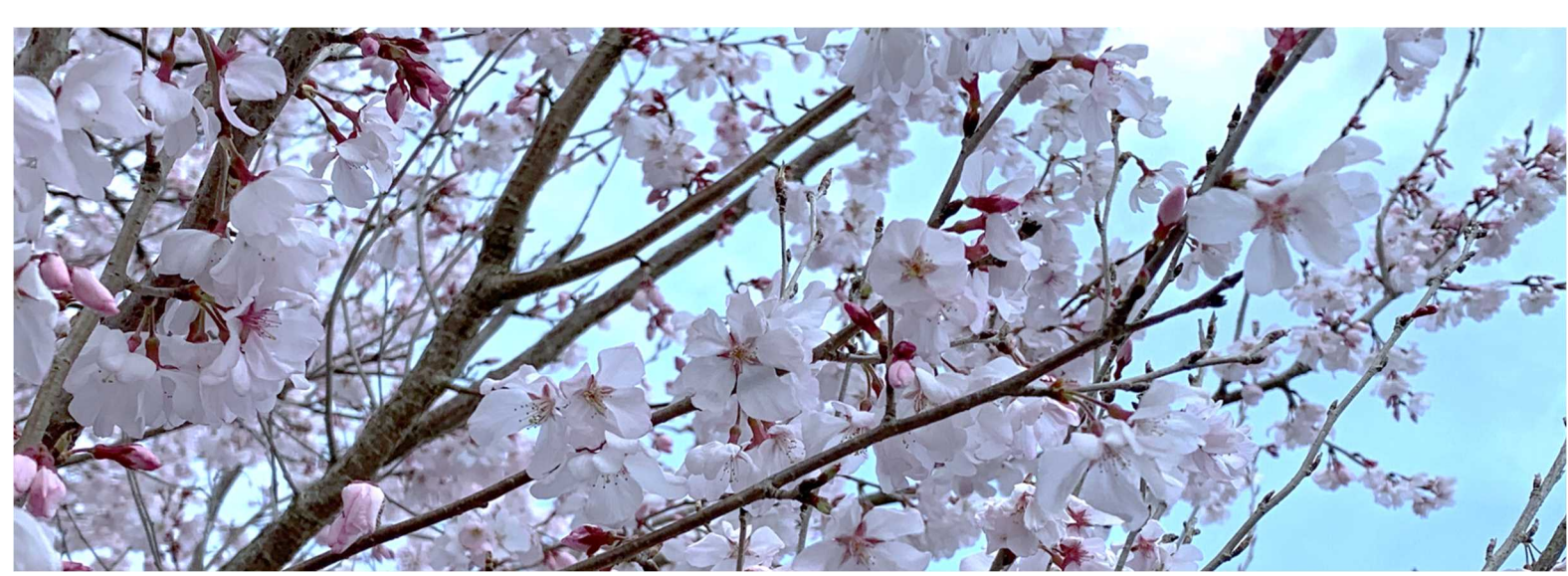
### うちエコ診断 WEB サービスの普及啓発

うちエコ診断士が診断する「うちエコ診断」は、受診家庭とコミュニケーションを取りながら、ご家庭に合わせたオーダーメイドの対策を提案するため、きめ細かいケアが可能です。これに加えて 2021 年度からは家庭エコ診断制度のホームページで「うちエコ診断 WEB サービス」がスタートしました。これはパソコンやスマートフォンを自分で操作して診断するスタイルで、時間の制約等がなく、手軽に診断することができます。ライフスタイルを見直すきっかけとして県民の皆さんに「うちエコ診断」「うちエコ診断 WEB サービス」の利用について普及啓発していきます。

### 事業所への普及啓発

福岡県の温室効果ガス排出量をみると、家庭部門の排出量は基準年度（2013 年度）と比べて約 53%削減されています。一方、前年度と比べて 5%増加の業務部門、基準年度比 17%の削減に留まっている産業部門では、さらなる削減が必要です。企業への環境マイスター派遣や省エネルギー相談等を利用について普及啓発を行い、産業部門での削減を推進していきます。





## 福岡県地球温暖化防止活動推進センター

(一般財団法人 九州環境管理協会内)

〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1

☎ 092-674-2360 ✉ [fcca@keea.or.jp](mailto:fcca@keea.or.jp)

<https://www.ecofukuoka.jp/center>

